

健診結果の判定区分が変わります

2022年4月より、人間ドック学会において結果の判定区分が改訂されます。当クリニックでも同様に判定区分を下記の通り改訂いたします。結果表にも判定区分を掲載いたしますので注意してご確認ください。

【判定区分の表記の具体的な改訂】

これまで「年1回要観察」はB判定に含んでいましたが、今回よりC判定の区分となります。

(旧判定区分)

A: 異常なし	B: 僅かな異常	C: 要再検	D1: 要治療	D2: 要精検	E: 治療継続
---------	----------	--------	---------	---------	---------

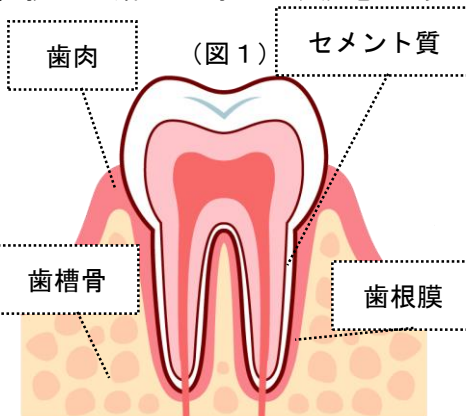
(2022年4月以降 新判定区分)

A: 異常なし	B: 僅かな異常	C: 要再検査 ・生活改善 (年1回要観察含む)	D: 要精密検査・治療	E: 治療継続
---------	----------	--------------------------------	-------------	---------

✿ 紗矢夏先生の口腔ケア講座 ✿ ~Part 4 歯周病と全身疾患~

歯周病とは、歯周病原細菌による感染症疾患です。一度感染すると長い歳月をかけて増えていき、ピロリ菌のような完全除菌は難しく、痛みもなく徐々に進行していきます。体の抵抗力が落ちた時や基礎疾患があると急激に悪化してしまいます。

たくさんの病原細菌がありますが、重い歯周病に関係している毒性の高いものを「レッドコンプレックス」といいます。レッドコンプレックスは、歯周ポケットの最深部に存在し、酸素がない環境下でも生きることができ、細菌が死んでも毒素は残ります。その毒素が出すサインが私たちの免疫反応を活発化させ、歯の土台を破壊していきます。歯を支える土台のことを歯周組織と呼び、歯肉、セメント質、歯根膜、歯槽骨の4つを指します(図1)。歯周病はこの4つを標的にして歯を失うだけでなく、さらには命にかかわる感染症とも言われています。



約20年前に歯周病が全身疾患に影響を与えることが証明されました。そして最近、それはレッドコンプレックスと呼ばれる最悪悪玉菌が原因だと分かったのです。レッドコンプレックスの死骸や炎症物質が歯肉や歯根膜にある毛細血管を通して全身の血管をめぐるプラークという塊になり、さらに高血圧、糖尿病、動脈硬化などの基礎疾患があると、そのプラークがいずれ崩れてそこに血球が集まり、心臓の近くなら心筋梗塞、脳の近くなら脳梗塞が発症するわけです。

先ほど歯周病原細菌に一度感染すると完全除菌できないと述べましたが、これらは元来、薬剤に対しての耐性があるため、内服薬も外用薬もあまり期待できません。ではどうすればいいのでしょうか。それには良い方法が2つあります。

1つ目はレッドコンプレックスを保有するような不衛生な口腔内環境にしないことです。歯垢を長い間ためておくと最深部にレッドコンプレックスがいる確率が高くなります。2つ目はレッドコンプレックスに感染しても、定期的に歯に付着しているプラークを専用の器具で除去したり、歯周ポケットの深い部分や歯の根の部分の歯石を除去することで細菌の絶対数を減らし血管に影響が出ないような状態にすることです。

今回は血管の炎症の話がメインでしたが、歯周病に罹患していると糖尿病や癌、認知症など様々な疾患の原因・悪化につながりますので、健やかな身体を保つためにも歯周病を予防しましょう。

歯科医師 中川 紗矢夏

地域の予防医療へ貢献

埼玉新聞『2022新春インタビュー 埼玉この人に聞く トップが語る今年の展望』

(※2022年1月7日に埼玉新聞に掲載された内容をそのままお載せしております。)

健診機能を併設したクリニックとして1983年に開業。「開業から38年間、大宮の地で信頼されてきたことを嬉しく思う。『すべては受診者のために』をモットーに労を惜しまない」と、予防医療を中心に長年地域の人々の健康に寄与し、コロナ禍ではあるものの受診者数は回復、2020年度は3万9千人に上った。

「支援や介護に頼らず自立した生活が送れる『健康寿命』をどれだけ延ばすことができるか。それを考えることが今の健診に重要」と強調。2011年から失明原因第1位の「緑内障」の早期発見を目的とした視野検査を、2016年から運動機能障害「ロコモティブシンドローム(ロコモ)」をチェックする「ロコモ度検査」を人間ドックの標準検査項目として導入した。「健康に対する価値観が高まり、真面目に考える人が多くなっている。健診を実施する私たちの使命も非常に重い」と引き続き健康寿命の延伸に役立つ検査導入の検討に余念がない。

また、体や健康のことに興味・関心を持ってもらうため、情報発信にも力を入れている。60歳以上を対象とした「シルバー倶楽部会員制度」を設け、高齢化が進む中、働く世代だけでなくリタイア後の世代にも人間ドックや健診を受診してもらうと同時に、健康に関するセミナーを継続的に開催することで情報を発信。2013年の発足以来好評を博し、現在の利用者数は3,400人を超える。

「健診結果をきちんと説明し、自分自身の体の現状を理解してもらった上で、情報を正確にリアルタイムで提供することが大切」と、検査の合間時間を利用して、生活習慣病予防に役立つ健康講座を開くなど積極的に取り組み、徐々に参加者数を増やしている。また、コロナ禍であることを踏まえ、動画投稿サイト「ユーチューブ」を活用した「健康×未来講座」を開設し、自宅で簡単に取り組めるロコモ予防運動や、専門家による解説動画などを公開している。

「時代に則した形で健診を考えていく。特定健診、がん検診と組み合わせる国民の健康をしっかり守っていききたい」と抱負を語る。また、「若い世代の人材を育てていきたい。若い感性で地域の予防医療を考え、発展させていってほしい」と後進の人材育成にも意欲を見せ、創業40周年にあたる2023年を見据えて、更なる予防医療への貢献に目を向けていた。



理事長 中川 高志



健康相談室だよりは当クリニックホームページにも掲載しております。バックナンバーもご覧いただけます。



** ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡ください **

ホームページ URL : <https://www.omiyacityclinic.com/>

ご意見・ご感想 : sodan@omiyacityclinic.com

